

日本薬学会九州支部特別講演会

演題：糖鎖シグナルによる B リンパ球活性化の制御

講師：鏑田 武志 先生

東京医科歯科大学 難治疾患研究所・教授

日時：平成 26 年 9 月 12 日（金） 17:00～18:00

場所：長崎大学薬学部第二講義室（2階）

要旨：B リンパ球をはじめ種々の免疫細胞は多数のレクチンを発現しており、糖鎖シグナルが免疫系を制御すると考えられる。CD22 は Siglec (Sialic acid-binding immunoglobulin-like lectin)-2 と呼ばれる Siglec ファミリーの一員で、もっぱら B リンパ球に発現する。CD22 は細胞外領域で α 2,6 シアル酸を特異的に認識し、細胞内領域の ITIM (immunoreceptor tyrosine-based inhibition motif) を介して B リンパ球の活性化を負に制御する。B リンパ球は多量の α 2,6 シアル酸を発現し、CD22 は同じ細胞が発現するリガンド（シスリガンド）ともっぱら反応することが知られている。CD22 の糖鎖リガンドの機能についての我々の最近の知見を紹介したい。

連絡先：長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科
生命薬科学専攻 細胞制御学分野
武田 弘資

TEL: 095-819-2417

E-mail: takeda-k@nagasaki-u.ac.jp